総合診療科・総合内科に宮崎教授が就任

総合診療科・総合内科
宮崎　景部長

診察日:水曜(午前・初診)

みなさまこんにちは。このたび総合診療科・総合内科部長(教授)を拝命いたしました宮崎景です。私は主に総合診療を専門としています。総合診療医は患者さんの特定の臓器、性別に着目するのではなく、あらゆる性別、年齢層の患者さんを体だけでなく心も含めて診ることを専門としています。地域の診療所では赤ちゃんからお年寄りまで広く診る家庭医として、大学病院においては、どの科にかかったら良いかわからない、診断がついていない、または多くの病気を抱えている内科系の患者さんを主に診療しています。私自身は米国のミシガン大学で総合診療医としての研鑽を積んだあと、三重県で家庭医として診療、教育、研究に携わり、縁があって名市大に参りました。大学病院から地域の診療所で広く活躍できる総合診療医を育成しながら、名古屋の皆さんの健康、幸せのお手伝いをさせていただければと思っています。何卒よろしくお願いいたします。

がんのピアサポーターによる相談会　毎月第2金曜日 10:00～12:00開催!!

がんのピアサポーターは、サポートのための研修を修了したがんの治療体験者で、がん患者さんの悩みや不安を傾聴し、ともに考えます。これまで当院は、がん診療連携拠点病院としてオンラインを活用したピアサポーターによる相談支援を実施してまいりましたが、2023年9月から毎月第2金曜日にピアサポーターの方に来院していただき、院内で対面での相談会を開催することになりました。患者さんだけではなく、ご家族、ご友人、当院を受診したことがない方など、どなたでも無料でご相談いただけます。

がん患者さんやご家族と同じ立場でお話できる場です。ぜひ、ご利用ください。

相談会の様子

『レモネードスタンド 海に咲くひまわり』様より、さくら基金へご寄附を頂きました！

2023年8月24日(木)に『レモネードスタンド 海に咲くひまわり』様より、さくら基金へご寄附をいただき、感謝状贈呈式を開催いたしました。レモネードスタンド 海に咲くひまわり様はレモネードを1杯100円で販売する等の募金活動を行っており、集められた募金を小児がんの治療をする病院や研究機関などに寄附されています。頂いた寄附金は小児がん治療の研究に活用をさせていただきます。

感謝状贈呈式には、代表者の請井咲子様と活動に協力をしている子どもたちにお越しをいただき、本院からは林副病院長・村田副病院長が出席し、感謝の意をお伝えすると共に、感謝状をお渡しさせていただきました。

左から林副病院長・代表 請井様、活動に協力をしている子どもたち・村田副病院長

感謝状贈呈式の様子

お問合せ先：経営課　052－858－7114
当広報誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。E-mailアドレス：hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp

名市大病院さくらほっとNEWS　vol.61　令和5年冬号
発行／名古屋市立大学病院　発行責任者／院外広報誌編集会議（年4回発行）
〒467－8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 TEL 052－858－7114(経営課)

NAGOYA CITY UNIVERSITY HOSPITAL　名古屋市立大学病院

さくらほっとNEWS

vol.61
令和5年冬号

こころの発達診療研究センターが開設しました …2
名市大病院のチカラ　Vol.29 ……3
総合診療科・総合内科に宮崎教授が就任 …4
がんのピアサポーターによる相談会 ……4
『レモネードスタンド 海に咲くひまわり』様より、さくら基金へご寄附を頂きました！……4

新棟の名称が『救急災害医療センター』に決定しました

現在工事中の新棟の名称公募へ沢山の応募をいただき、ありがとうございました。公募により集まった計188案の審査を行い、「救急災害医療センター」を名称として決定しました。市民の皆さまからも大変多くの応募があり、皆さんの大きな期待を感じています。今後も、2025年夏頃開棟予定の「救急災害医療センター」へご理解のほどよろしくお願いいたします。

～考案者の意図(原文抜粋)～

救急機能の強化、災害機能の強化、医療人育成のさらなる機能拡充という3つの要素を含んだ名称とし、救急、災害、医療人育成の3本柱が密接な関係を築くように、「救急」と「災害」と「医療」に文字間隔を詰めて、密接な関係を表した。

救急災害医療センター　完成イメージ

こころの発達診療研究センターが開設しました

2023年8月1日（火）、名古屋市立大学病院に、こころの発達診療研究センターが開設されました。また同時に医学研究科には、こころの発達医学寄附講座も設置されました。ここでは、発達障害を抱える方々に対する医療と支援とともに発達障害の研究にも取り組んでいきます。発達障害は医学的には神経発達症と呼ばれます。

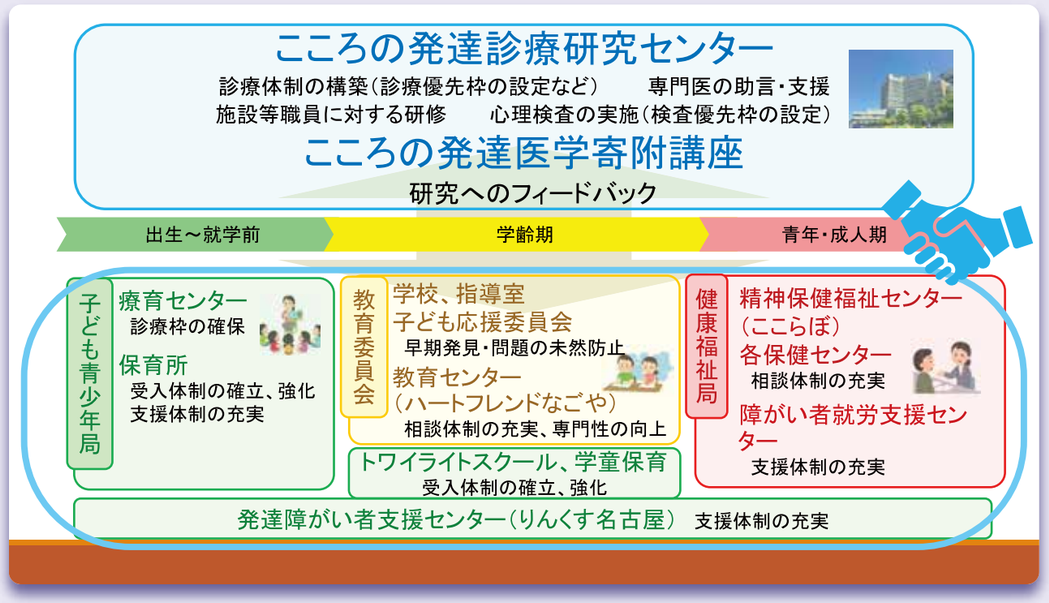
近年、神経発達症の問題を抱える方の割合は増加しています。例えば、2022年度の文科省による「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」で「学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた児童生徒数の割合は、小中学校で8.8％と報告されています。こうした神経発達症は子どもだけの問題ではありません。大学生になって単身生活ができなかったり、就労したものの仕事ができなかったりして初めて気づかれるケースはたくさんあります。このため神経発達症を抱える方々に対してはライフスパン全体を通じた様々な支援が必要となってきます。医療にとどまらず、子育て、教育、就労といった日常生活全般に深く関わる支援が求められます。我々の使命は、名古屋市の子ども青少年局、教育委員会、健康福祉局の3局と協同して神経発達症の方々を支えていく体制を作っていくことです。

スタッフとして、精神科2名、小児科2名、臨床心理士/公認心理師2名、事務員1名の計7名が配置されます。現在、小児科の永井幸代寄附講座教授、大橋圭寄附講座講師、公認心理師の山田理恵寄附講座助教が着任し、スタートしています。

我々が具体的に取り組んでいくことは、(1) 神経発達症に関する医学的な調査研究、(2) 医療・保健・福祉・教育などの現場で活用できるアセスメントツールの開発、(3) 神経発達症の診療に関わる医師を対象とする神経発達症研修プログラムの開発、(4) 神経発達症の支援に関わる職員を対象とする発達支援プログラムの開発です。そして研究成果を踏まえ、診療体制の構築、神経発達症に関わる職員研修、困難ケースへの対応に関する助言、支援、全ライフステージにおける神経発達症に関する職員向け支援ガイドラインの作成といった連携事業も行っていきます。

神経発達症を抱える方々とその家族だけでなく、支援者の方々をはじめ、皆様に対して開かれ、寄り添えるセンターを目指していきたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

文責　こころの発達診療研究センター長　山田 敦朗



名市大病院のチカラ Vol.29

看　護　部　学生教育に力を入れています

看護部では、全部署の協力を得て、2023年7月27日(木) ～ 9月1日(金)の間で、インターンシップを開催しました。見学場所では、看護業務、教育体制、福利厚生をはじめ、看護職同士や他職種とのコミュニュケーションを見ていただきました。

参加した304名の学生からは、「実習のような体験ができて、より名市大で働きたいと思った」「部署の雰囲気が伝わった」「就職後のイメージがついた」等、好評な意見をいただきました。また、アンケート結果では94.9％の学生から、当院への就職の希望がありました。

今年の特徴は、東海3県以外に、宮城から沖縄までの17県から約30名の参加があったことです。その理由は、救急災害医療センターへの興味があったからだそうです。2025年夏頃開棟予定の救急災害医療センターは、未来に働く学生達の夢でもあります。看護部では、夢と希望をもって当院を選んでくれる学生達が、働きやすい職場であるよう環境を整えていく使命を強く感じています。

インターンシップの様子

臨床工学室　臨床工学技士20周年記念式典を開催しました

当院では、2004年10月1日に臨床工学技士（CE）が1名採用され、医療機器安全管理体制を整え、今年で20 周年を迎えました。2023年10月1日(日)に愛知県臨床工学技士会の理事、および名古屋大学臨床工学部長、近隣の臨床工学技士長をお招きし、本学の5附属病院間の連携強化、およびCEの役割や未来を考えるため、『名古屋市立大学臨床工学技士20周年記念式典』を開催しました。

CEが人工心肺、人工透析、集中治療、デバイス関連、心臓カテーテル等診療支援業務拡大を行い、歩んできた20年を振り返り、医師の働き方改革に伴うタスクシェア/シフトに根差した麻酔補助業務や、先端的研究分野への未来プランを考えるとともに、愛知県臨床工学技士会の神戸幸司理事長による特別講演が行われました。多くの皆様に見守られ、明るい未来へ向けた新たな一歩を踏み出しました。

いのちを支えるエンジニアと呼ばれているCEは、『すぐそばにCE』を合言葉に、デジタル技術やロボットの進出する医療現場において、5附属病院連携の機動力を活かし、チーム医療の一員として、高度化複雑化している医療機器の安全性と有効性維持をこれからも担ってまいります。